

2017年10月31日

【報道用資料】

超高齢化で心不全患者の急増が予測される社会を前に

知っているようで知らない 「心不全」に関する生活者調査

公益財団法人 循環器病研究振興財団（理事長：北村惣一郎、所在地：大阪府吹田市）は本年9月、20代から60代の男女1,000人（男性500人／女性500人）を対象に、インターネットで「心不全に関する理解度を知る調査」を行いました。

本調査は、高齢化の進展とともに「心不全」患者さんの急激な増加が予測される中、一般生活者の心不全に対する意識や知識の状況などを明らかにすることで、心不全の早期発見・早期治療に向けた今後の啓発の取り組みや関心を持つきっかけづくりとなることを目的に実施しました。

<調査実施概要>

- 【対象者】 一般の男女 20代～60代
【サンプル数】 1,000人（男性500人 女性500人） ※全国の性年代人口構成比で割付
【調査実施期間】 2017年9月21日～25日
【調査方法】 インターネット調査

<「心不全」に関する調査結果の主なトピックスは、以下のとおりです>

「心不全」の名称を知っている人が全世代で97.7%（60代男女で100%）とほぼ全員。しかし、症状や内容まで理解している人は27.3%にとどまる。さらに、その約5割超の人が「心不全は人間が死亡した時の診断名のことである」と回答しており、名称は知られているが症状や内容に関する理解はなされていない状況が浮かびあがった。

- 心不全の名称を知っているが全世代で97.7%、男性・女性ともに60代では100%。
- 良く知られている心臓疾患も1位「心不全」、2位「心筋梗塞」、3位「高血圧症」。
- 症状や内容まで理解しているが3割弱で、約7割の人は名称は知っているが理解していない。
- 症状や内容まで理解している人の5割超が「心不全は人間が死亡した時の診断名のことである」と回答。
- 症状について知っている人は、およそ5人に1人。
- 治療に関する10の質問について、知識が“ゼロ”という人が、3人に1人。
- 【心不全に関する知識を得た後】

症状や内容まで理解している人でも86.8%が「心不全について正確な知識がなかった」と回答。
「自分も心不全にかかる可能性があると思う」が約10ポイント増加し、意識の変化がみられた。

【本調査に関するお問い合わせ先】

公益財団法人 循環器病研究振興財団 斎藤、小川、井上 電話：06-6872-0010

■ 心不全の名称を知っているのは全世代で97.7%、男性・女性ともに60代では100%

■ 良く知られている心臓疾患は、1位「心不全」、2位「心筋梗塞」、3位「高血圧症」

「心不全」について、「症状や内容まで詳しく知っている（症状・内容理解）」および「名前だけ知っている（名称のみ認知）」と答えた人の合計は97.7%にのぼり、各種機関の予防や早期治療の啓発などを通して広く認知されていると思われる「心筋梗塞」（97.6%）「高血圧症」（95.6%）を抑えて1位となった。なかでも60代では、男性・女性ともに全員が「知っている」と答えている。

■ 症状や内容まで理解しているが3割弱で、約7割の人は名称は知っているが理解していない

心不全の「症状や内容まで詳しく知っている」の理解者は27.3%にとどまり、「名前だけ知っている」「名前も知らない」の非理解者が72.7%と、名称は知っているが理解していない人が多数という結果となった。また、高血圧症の理解者は44.2%、心筋梗塞の理解者は40.3%と高い。心不全は「高血圧症」「心筋梗塞」に比べても、病状や内容まで理解されていない状況にあることが伺える。

図 心臓病の名称認知状況（N=1000）

Q.以下にあげたそれぞれの病気について、あてはまるものをお知らせください。（SA）

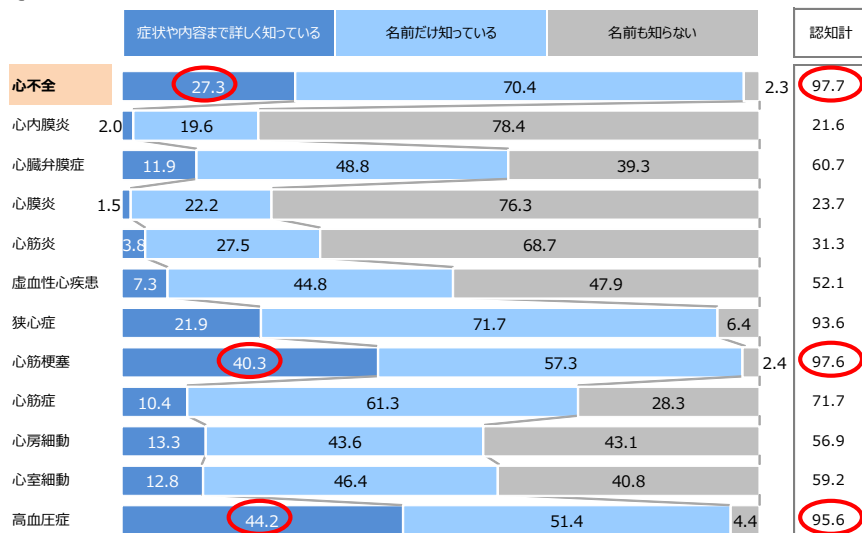


表 階層別にみた心臓病の名称認知状況（認知計）

Q.以下にあげたそれぞれの病気について、あてはまるものをお知らせください。（SA）

	回収数	心不全	心内膜炎	心臓弁膜症	心膜炎	心筋炎	虚血性心疾患	狭心症	心筋梗塞	心筋症	心房細動	心室細動	高血圧症
全体	1000	97.7	21.6	60.7	23.7	31.3	52.1	93.6	97.6	71.7	56.9	59.2	95.6
性×年代別	男性計	500	96.8	21.6	58.4	24.4	29.2	48.8	91.6	68.8	56.8	60.0	94.6
	20代男性	79	89.9	15.2	25.3	21.5	26.6	44.3	77.2	92.4	60.8	34.2	87.3
	30代男性	99	96.0	24.2	36.4	24.2	34.3	42.4	89.9	96.0	67.7	51.5	94.9
	40代男性	116	97.4	22.4	50.9	25.9	27.6	44.0	91.4	98.3	69.8	63.8	94.0
	50代男性	96	99.0	19.8	75.0	17.7	25.0	55.2	95.8	96.9	70.8	60.4	94.8
	60代男性	110	100.0	24.5	95.5	30.9	31.8	57.3	100.0	99.1	72.7	67.3	100.0
	女性計	500	98.6	21.6	63.0	23.0	33.4	55.4	95.6	98.4	74.6	57.0	96.6
	20代女性	76	98.7	19.7	34.2	17.1	25.0	39.5	92.1	98.7	67.1	38.2	90.8
	30代女性	97	100.0	22.7	43.3	23.7	35.1	56.7	94.8	99.0	74.2	51.5	97.9
	40代女性	114	95.6	22.8	52.6	22.8	36.8	52.6	93.9	97.4	79.8	53.5	94.7
	50代女性	97	99.0	20.6	81.4	24.7	35.1	61.9	96.9	99.0	79.4	70.1	99.0
	60代女性	116	100.0	21.6	93.1	25.0	32.8	62.1	99.1	98.3	70.7	66.4	99.1
心不全認知状況別	認知計	977	100.0	21.9	61.7	24.0	31.4	52.5	95.2	98.6	72.6	57.7	96.7
	症状・内容理解	273	100.0	35.9	79.1	43.2	49.1	73.6	100.0	99.3	85.0	77.7	99.6
	名称のみ認知	704	100.0	16.5	55.0	16.5	24.6	44.3	93.3	98.3	67.8	50.0	95.6
	非認知	23	0.0	8.7	17.4	13.0	26.1	34.8	26.1	56.5	34.8	21.7	47.8

注) 数値は回収数を100とした%

■ : 全体より10ポイント以上高い ■ : 全体より5ポイント以上高い ■ : 全体より10ポイント以上低い ■ : 全体より5ポイント以上低い (N≥30)

■ 心不全を詳しく知っている人の5割超が、「心不全は人間が死亡した時の診断名のことであり」と回答
 “心臓の機能が停止するのが心不全”というイメージを持ち、正しく理解されていない

■ 20代の約5割で「心不全は高齢者になる病気」との認識

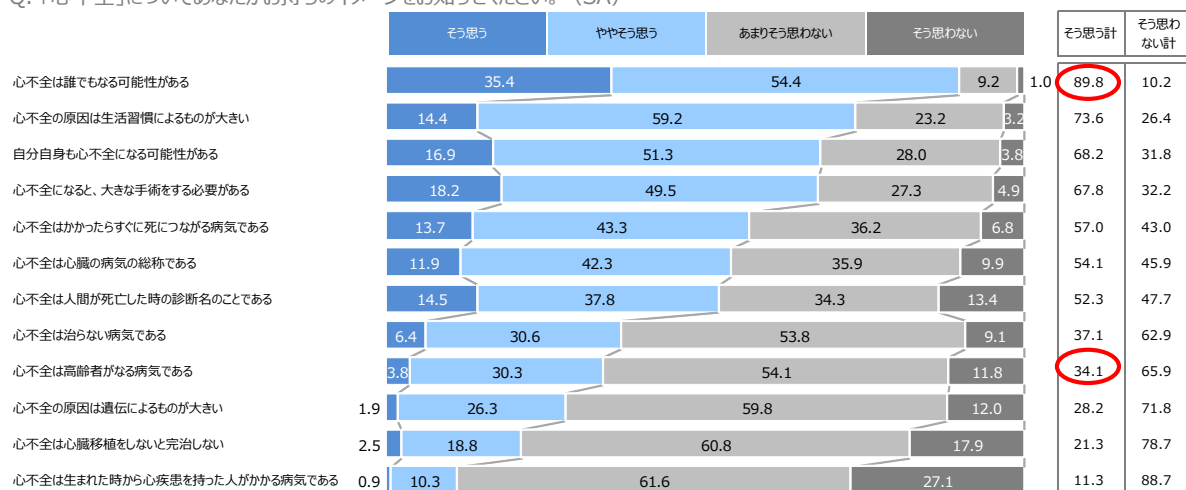
心不全に対するイメージについて、「心不全は誰でもなる可能性がある」（89.8%）病気として認識しているが、「心不全は高齢者になる病気である」で34.1%となり、特に男女ともに若年世代ほど（20代で約5割）その認識が高く、自分たちには関係のない病気との意識が強い。一方、高齢者の7割強で高齢者だけの病気ではないとの認識がある。

また、心不全の症状・内容理解者（27.3%）の半数以上が「心不全にかかったらすぐに死につながる病気である」（53.8%）、「心不全は心臓の病気の総称である」（53.1%）、「心不全は人間が死亡した時の診断名のことであり」（51.6%）と回答しており、心不全の正しい理解がなされているとはいえない状況である。

自由回答からも「心臓の機能が停止する」「心臓が機能不全となる」などで約半数（49.9%）を占めており、“心臓が止まるのが心不全＝心臓停止が死因”という理解しかされていない状況が裏付けられる。

図 心不全のイメージ（N=977）

Q.「心不全」についてあなたがお持ちのイメージをお知らせください。（SA）



注）数値は心不全認知者を100とした%

表 階層別にみた心不全のイメージ（そう思う計）

Q.「心不全」についてあなたがお持ちのイメージをお知らせください。（SA）

		心不全認知者	心不全は誰でもなる可能性がある	心不全の原因は生活習慣によるものが大きい	自分自身も心不全になる可能性がある	心不全になると、大きな手術をする必要がある	心不全はかかったらすぐに死につながる病気である	心不全は心臓の病気の総称である	心不全は人間が死亡した時の診断名のことであり	心不全は治らない病気である	心不全は高齢者になる病気である	心不全の原因は遺伝によるものが大きい	心不全は心臓移植をしないと完治しない	心不全は生まれた時から心疾患を持った人がかかる病気である
全 体		977	89.8	73.6	68.2	67.8	57.0	54.1	52.3	37.1	34.1	28.2	21.3	11.3
性×年代別	男性計	484	89.5	75.0	68.2	68.4	57.4	53.1	53.5	34.1	35.5	30.0	21.7	12.4
	20代男性	71	87.3	76.1	60.6	69.0	60.6	52.1	40.8	49.3	32.4	21.1	16.9	
	30代男性	95	92.6	77.9	77.9	71.6	67.4	48.4	51.6	40.0	44.2	28.4	22.1	11.6
	40代男性	113	87.6	71.7	71.7	72.6	54.0	54.9	59.3	33.6	32.7	35.4	23.9	7.1
	50代男性	95	86.3	77.9	60.0	74.7	60.0	50.5	52.6	31.6	31.6	29.5	23.2	12.6
	60代男性	110	92.7	72.7	68.2	55.5	48.2	58.2	29.1	25.5	24.5	18.2	15.5	
	女性計	493	90.1	72.2	68.2	67.1	56.6	55.2	51.1	40.0	32.7	26.6	20.9	10.1
	20代女性	75	89.3	68.0	68.0	76.0	58.7	46.7	38.7	40.0	50.7	30.7	22.7	10.7
	30代女性	97	90.7	77.3	71.1	79.4	60.8	53.6	52.6	44.3	36.1	34.0	26.8	13.4
	40代女性	109	89.9	73.4	70.6	67.9	56.9	51.4	51.4	38.5	32.1	22.9	21.1	11.9
	50代女性	96	93.8	72.9	67.7	58.3	46.9	59.4	55.2	36.5	25.0	31.3	18.8	6.3
	60代女性	116	87.1	69.0	63.8	57.8	59.5	62.1	54.3	40.5	25.0	17.2	16.4	8.6
心不全認知状況別	認知計	977	89.8	73.6	68.2	67.8	57.0	54.1	52.3	37.1	34.1	28.2	21.3	11.3
	症状・内容理解	273	91.9	74.0	76.9	64.5	53.8	53.1	51.6	33.0	26.7	28.9	19.0	9.5
	名称のみ認知	704	88.9	73.4	64.8	69.0	58.2	54.5	52.6	38.6	36.9	28.0	22.2	11.9

注）数値は心不全認知者を100とした%

■：全体より10ポイント以上高い ■：全体より5ポイント以上高い ■：全体より10ポイント以上低い ■：全体より5ポイント以上低い（N≥30）

■ 心不全の症状について知っている人は、およそ5人に1人。

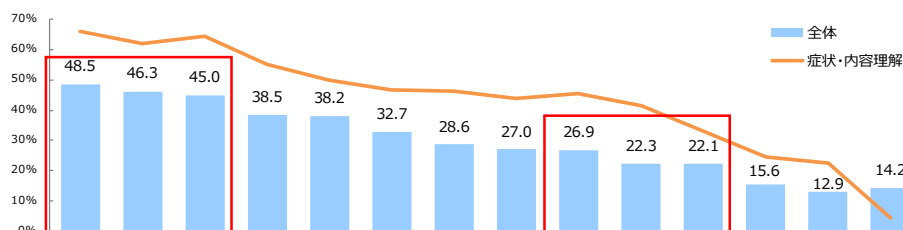
心不全に至る原因として認知されているものには、「急性心不全が原因不明の突然死の原因となることもある」（48.5%）、「肥満は心臓に負担がかかるため心不全の原因になることがある」（46.3%）、「タバコや塩分の摂りすぎは心不全の原因になることがある」（45.0%）などがあげられる。

しかし、より具体的な原因「心不全の主な原因としては、弁膜症や高血圧、心筋梗塞あるいは心筋症、不整脈といった疾患がある」（26.9%）は、4人に1人程度しか認知していない。同様に、「初期症状には動悸や息切れ、足のむくみや倦怠感がある」（22.3%）、「時間とともに重症化し、治りにくくなる」（22.1%）といった具体的な症状についても、5人に1人程度しか認知していない。

これらをさらに、心不全に対する認知状況別に見た場合、症状・内容理解者であっても心不全の具体的な原因や症状を認知している人は半数に満たない（「心不全の主な原因としては、弁膜症や高血圧、心筋梗塞あるいは心筋症、不整脈といった疾患がある」（45.4%）、「初期症状には動悸や息切れ、足のむくみや倦怠感がある」（41.4%）、「時間とともに重症化し、治りにくくなる」（33.0%））。名称のみ認知者に至っては、それぞれ19.7%、14.9%、17.9%となり、5人に1人程度しか知らない状況である。

図 心不全について知っていること

Q.あなたが「心不全」の原因や症状について、ご存知のことをすべてお知らせください。（MA）



心不全認知者		急性心不全が原因不明の突然死の原因になることもある	肥満は心臓に負担がかかるため心不全の原因になることがある	タバコや塩分の摂り過ぎは心不全の原因になることがある	心不全とは心臓の働きが弱くなることで起こる症状である	風邪、過労、ストレスが引き金になって急性心不全が起こることがある	アルコールの飲みすぎも心臓に負担がかかるため、心不全の原因になることがある	心不全が進行すると坂道を登ったり、重いものを持っただけで息苦しくなる	心不全が進行すると慢性的に発生する「慢性心不全」がある	心不全は急に症状が出る「急性心不全」と長期にわたって慢性的に発生する「慢性心不全」がある	心不全の主な原因としては、弁膜症や高血圧、心筋梗塞あるいは心筋症、不整脈といった疾患がある	初期症状には動悸や息切れ、足のむくみや倦怠感がある	時間とともに重症化し、治りにくくなる	心不全による死亡者数は心疾患のうち最も高くなっている	高齢者だけではなく、15〜64歳の心不全患者が3万人以上いる	この中にはひとつもない	いずれか認知	回答個数平均
全 体		977	48.5	46.3	45.0	38.5	38.2	32.7	28.6	27.0	26.9	22.3	22.1	15.6	12.9	14.2	85.8	4.05
性×年代別	男性計	484	45.2	44.8	47.7	33.5	39.0	34.5	26.9	24.6	25.8	20.5	21.5	15.5	12.2	16.9	83.1	3.92
	20代男性	71	23.9	26.8	26.8	22.5	31.0	29.6	14.1	11.3	9.9	11.3	16.9	9.9	2.8	32.4	67.6	2.37
	30代男性	95	42.1	40.0	38.9	25.3	37.9	34.7	15.8	18.9	18.9	15.8	16.8	9.5	9.5	24.2	75.8	3.24
	40代男性	113	41.6	45.1	52.2	33.6	42.5	35.4	30.1	23.0	20.4	16.8	17.7	9.7	10.6	14.2	85.8	3.79
	50代男性	95	51.6	54.7	55.8	34.7	40.0	30.5	33.7	30.5	29.5	22.1	26.3	17.9	11.6	9.5	90.5	4.39
	60代男性	110	60.0	51.8	57.3	46.4	40.9	40.0	35.5	34.5	44.5	32.7	28.2	28.2	22.7	10.0	90.0	5.23
	女性計	493	51.7	47.7	42.4	43.4	37.3	30.8	30.2	29.4	28.0	24.1	22.7	15.6	13.6	11.6	88.4	4.17
	20代女性	75	40.0	30.7	36.0	34.7	32.0	33.3	22.7	17.3	14.7	16.0	14.7	10.7	6.7	26.7	73.3	3.09
	30代女性	97	41.2	44.3	40.2	41.2	38.1	35.1	20.6	18.6	15.5	17.5	17.5	11.3	10.3	15.5	84.5	3.52
	40代女性	109	56.9	54.1	41.3	44.0	43.1	34.9	29.4	33.0	25.7	24.8	23.9	13.8	15.6	7.3	92.7	4.40
心不全認知状況別	50代女性	96	60.4	59.4	54.2	49.0	41.7	28.1	37.5	36.5	38.5	28.1	29.2	17.7	16.7	4.2	95.8	4.97
	60代女性	116	56.0	45.7	39.7	45.7	31.0	24.1	37.9	37.1	40.5	31.0	25.9	22.4	16.4	8.6	91.4	4.53
	認知計	977	48.5	46.3	45.0	38.5	38.2	32.7	28.6	27.0	26.9	22.3	22.1	15.6	12.9	14.2	85.8	4.05
	症状・内容理解	273	65.9	61.9	64.5	55.3	49.8	46.5	46.2	44.0	45.4	41.4	33.0	24.5	22.7	4.4	95.6	6.01
名称のみ認知		704	41.8	40.2	37.5	32.0	33.7	27.3	21.7	20.5	19.7	14.9	17.9	12.1	9.1	18.0	82.0	3.28

注) 数値は心不全認知者を100とした%
 ■ : 全体より10ポイント以上高い ■ : 全体より5ポイント以上高い ■ : 全体より10ポイント以上低い ■ : 全体より5ポイント以上低い (N≧30)

■ 心不全の治療に関する10の質問について、知識が“ゼロ”という人が、3人に1人

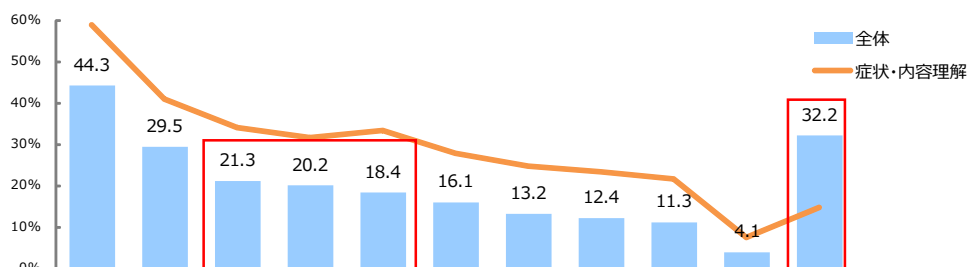
「心不全であっても適度な運動は有効である」（21.3%）、「心不全は悪化すると心臓の機能を回復することができず、最終的には心臓移植が必要になる」（20.2%）、「心不全の治療には安静や食事療法が効果的である」（18.4%）、など、心不全の具体的な治療に関する知識を持つ人は約2割にとどまる。

さらには、「この中にはひとつもない」で32.2%の回答があり、心不全症状・内容理解者の14.7%に対して、心不全の名称のみ認知者で39.1%と、約4割が治療に関する知識に疎いという結果になった。

また、心臓移植の待機期間の認知が「心臓移植は現在登録から実施までに約4年かかる」（4.1%）で低く、その待機期間の間で必要となる補助人工心臓の役割「心臓移植を待つ間は補助人工心臓を装着しないと、心臓が止まってしまう」（11.3%）やQOL「今は、植込み型人工心臓が使えるようになって心臓移植待機期間でも社会復帰ができるようになっていく」（12.4%）も10人に1人程度と知られていない状況である。

図 心不全の治療について知っていること

Q.あなたが「心不全」の治療についてご存知のことをすべてお知らせください。（MA）



		心不全認知者	心不全の認知は重要である	心不全であっても適度な運動は有効である	心不全は悪化すると心臓の機能を回復することができず、最終的には心臓移植が必要になる	心不全の治療には安静や食事療法が効果的である	心不全では薬物治療（薬による治療）が有効である	心不全の治療に人工呼吸器を使用することがある	心不全の治療に人工心臓が使えるようになって心臓移植待機期間でも社会復帰ができるようになっていく	心臓移植を待つ間は補助人工心臓を装着しないと、心臓が止まってしまう	心臓移植は現在登録から実施までに約4年かかる	この中にはひとつもない	いずれか認知	回答個数平均	
全 体		977	44.3	29.5	21.3	20.2	18.4	16.1	13.2	12.4	11.3	4.1	32.2	67.8	1.91
性×年代別	男性計	484	41.5	26.9	22.7	20.7	17.8	15.1	16.1	12.0	13.0	4.8	35.7	64.3	1.90
	20代男性	71	28.2	12.7	15.5	15.5	12.7	14.1	12.7	8.5	11.3	4.2	47.9	52.1	1.35
	30代男性	95	33.7	22.1	22.1	15.8	16.8	14.7	14.7	9.5	8.4	6.3	47.4	52.6	1.64
	40代男性	113	40.7	25.7	21.2	18.6	15.0	9.7	15.0	8.0	16.8	1.8	36.3	63.7	1.73
	50代男性	95	50.5	29.5	24.2	24.2	18.9	16.8	17.9	17.9	14.7	6.3	23.2	76.8	2.21
	60代男性	110	50.0	39.1	28.2	27.3	23.6	20.0	19.1	15.5	12.7	5.5	28.2	71.8	2.41
	女性計	493	47.1	32.0	19.9	19.7	19.1	17.0	10.3	12.8	9.5	3.4	28.8	71.2	1.91
	20代女性	75	33.3	26.7	17.3	18.7	18.7	12.0	8.0	6.7	6.7	4.0	42.7	57.3	1.52
	30代女性	97	46.4	24.7	15.5	16.5	16.5	13.4	10.3	10.3	7.2	3.1	30.9	69.1	1.64
	40代女性	109	46.8	28.4	15.6	20.2	19.3	17.4	11.0	13.8	10.1	2.8	29.4	70.6	1.85
心不全認知状況別	50代女性	96	58.3	44.8	21.9	20.8	26.0	19.8	11.5	17.7	12.5	3.1	22.9	77.1	2.36
	60代女性	116	47.4	34.5	27.6	21.6	15.5	20.7	10.3	13.8	10.3	4.3	22.4	77.6	2.06
	認知計	977	44.3	29.5	21.3	20.2	18.4	16.1	13.2	12.4	11.3	4.1	32.2	67.8	1.91
	症状・内容理解	273	59.0	41.0	34.1	31.9	33.3	27.8	24.9	23.4	21.6	7.7	14.7	85.3	3.05
	名称のみ認知	704	38.6	25.0	16.3	15.6	12.6	11.5	8.7	8.1	7.2	2.7	39.1	60.9	1.46

注）数値は心不全認知者を100とした%

■：全体より10ポイント以上高い ■：全体より5ポイント以上高い ■：全体より10ポイント以上低い ■：全体より5ポイント以上低い（N≥30）

本調査では、心不全の原因や治療などについて、正しい知識を得た後の意識の変化を知るために、あえて「知識を提供しないままに聞いた設問」と「知識を提供した後に聞いた設問」を設けています。

<アンケートの回答途中で提示した情報>

心不全の原因と治療

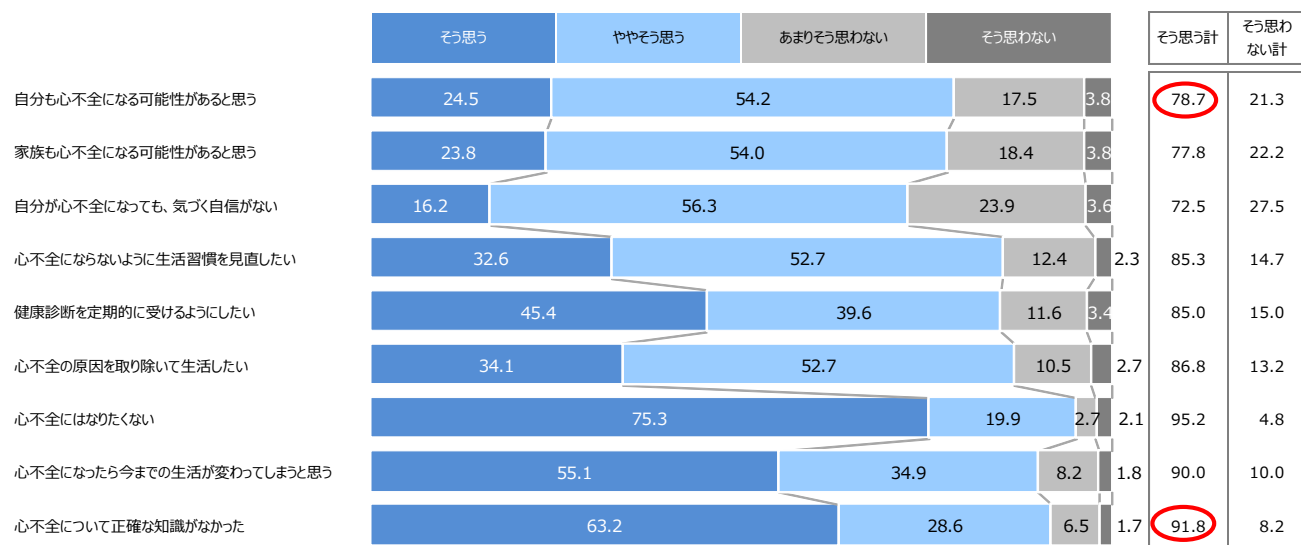
心不全は病名ではなく、さまざまな心臓の病気の結果、このポンプの働きに障害が生じていろいろな症状を引き起こしている状態を指します。

原因となる心臓の病気は、心筋梗塞や狭心症、心臓弁膜症、心筋症、高血圧などがあり、生活習慣病との関連性が高いものも多く、その病気の引き金となる過労、風邪などの感染症、肥満、喫煙、塩分の摂り過ぎ、飲酒、睡眠不足、ストレスなどには注意が必要です。心不全は、その原因となる心臓の病気を薬物などで治療することが基本ですが、重症心不全に進行した場合、「心臓移植」を行う以外に治療方法がないのが現状です。

現在、日本は臓器提供が少ないため、心臓移植登録から移植までに約4年かかり、多くの患者さんがその待機期間に「補助人工心臓」を装着することで移植までの命をつないでいます。

図 心不全内容提示後の意識 (N=1000)

Q.心不全とは上記のような「心臓の状態」のことを言い、誰もがその状態になる可能性があります。心不全の原因と治療について知って、あなたはどのように思いましたか。あてはまるものをお知らせください。(SA)



注) 数値は回収数を100とした%

●心不全について正しく記述された文章を読んでもらった後で

■ 症状や内容まで理解している人でも86.8%が「心不全について正確な知識がなかった」と回答

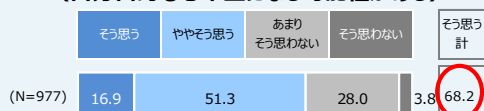
心不全について正しい知識を得た後の特徴的な意識としては、「心不全について正確な知識がなかった(91.8%)」があげられる。これをさらに階層別にみると、心不全症状・内容理解者でも、「心不全について正確な知識がなかった(86.8%)」と回答している。名前や症状は「ぼんやりと聞いたり理解してはいる」が、その具体的な内容については「はっきりとわかっていない」ことが伺える。

■ 「自分も心不全にかかる可能性があると思う」人が約10ポイント増加

心不全について正しい知識を得る前・得た後で比較すると、「自分自身も心不全になる可能性がある」が、全体で68.2%から78.7%へと、約10ポイント増加した。

心不全を知る前

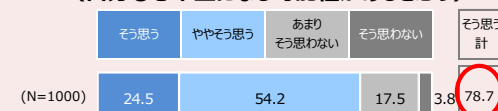
(自分自身も心不全になる可能性がある)



注) 数値は心不全認知者を100とした%

心不全を知った後

(自分も心不全になる可能性があると思う)



注) 数値は回収数を100とした%

表 階層別にみた心不全内容提示後の意識（そう思う計）

Q.心不全とは上記のような「心臓の状態」のことを言い、誰もがその状態になる可能性があります。心不全の原因と治療について知って、あなたはどのように思いましたか。あてはまるものをお知らせください。（SA）

		回収数	自分も心不全になる可能性があると思う	家族も心不全になる可能性があると思う	自分が心不全になっても、気づく自信がない	心不全にならないように生活習慣を見直したい	健康診断を定期的に受けるようにしたい	心不全の原因を取り除いて生活したい	心不全にはなりたくない	心不全になつたら今までの生活が変わってしまうと思う	心不全について正確な知識がなかった
全 体		1000	78.7	77.8	72.5	85.3	85.0	86.8	95.2	90.0	91.8
性×年代別	男性計	500	75.4	72.0	68.0	81.2	81.2	84.2	94.8	89.0	90.0
	20代男性	79	68.4	64.6	64.6	72.2	68.4	72.2	89.9	86.1	84.8
	30代男性	99	76.8	76.8	66.7	80.8	81.8	80.8	94.9	88.9	89.9
	40代男性	116	77.6	75.9	73.3	81.0	81.9	81.9	94.8	89.7	91.4
	50代男性	96	75.0	71.9	61.5	82.3	80.2	88.5	93.8	90.6	88.5
	60代男性	110	77.3	69.1	71.8	87.3	90.0	94.5	99.1	89.1	93.6
	女性計	500	82.0	83.6	77.0	89.4	88.8	89.4	95.6	91.0	93.6
	20代女性	76	82.9	89.5	81.6	85.5	86.8	84.2	93.4	90.8	86.8
	30代女性	97	83.5	87.6	82.5	83.5	85.6	89.7	94.8	96.9	93.8
	40代女性	114	79.8	82.5	73.7	86.8	88.6	88.6	93.9	92.1	91.2
	50代女性	97	83.5	84.5	77.3	93.8	90.7	88.7	96.9	87.6	97.9
	60代女性	116	81.0	76.7	72.4	95.7	91.4	94.0	98.3	87.9	96.6
健康診断・人間ドック 受診状況別	受診経験あり	821	80.5	80.4	73.3	87.6	90.7	89.3	96.5	91.5	93.4
	一年に一度以上受診	583	79.9	79.8	71.7	89.0	95.0	91.1	96.4	90.6	93.3
	受診経験なし	179	70.4	65.9	68.7	74.9	58.7	75.4	89.4	83.2	84.4
心不全認知状況別	認知計	977	80.1	79.3	73.5	86.7	86.0	87.8	96.3	91.1	92.6
	症状・内容理解	273	85.0	80.6	66.3	91.6	91.2	90.1	96.7	90.5	86.8
	名称のみ認知	704	78.3	78.8	76.3	84.8	83.9	86.9	96.2	91.3	94.9
	非認知	23	17.4	13.0	30.4	26.1	43.5	43.5	47.8	43.5	56.5
心不全罹患経験有無別	自分・周りで罹患経験あり	134	89.6	91.0	70.9	95.5	90.3	89.6	94.8	92.5	88.8
	罹患経験なし	843	78.6	77.5	73.9	85.3	85.3	87.5	96.6	90.9	93.2

注）数値は回収数を100とした％
■：全体より10ポイント以上高い ■：全体より5ポイント以上高い ■：全体より10ポイント以上低い ■：全体より5ポイント以上低い（N≧30）

■ 多くの人に心不全は「名前は知っているが、原因や症状はよくわからない」

「“心不全”という名前は知っているが、原因や症状はよくわからない」。

今回の調査では、多くの人がそう感じているということが、あらためて浮き彫りになりました。

まず目を惹くのは、「名称」の認知の高さです。名前だけなら「心筋梗塞」や「高血圧症」よりも知っているという結果が出ましたが、必ずしも心不全を理解しているわけではありません。「心臓病で死亡した時の診断名」と誤解している人もいます。原因や症状を詳しく知っている人は3割程度に過ぎず、さらに治療法となると、ほとんど知られていません。正しい知識を提供した後は、9割近くの人が「正確な知識がなかった」と答えたことから、「理解の浅さ」が伺えます。

■ 正しい知識を得ることではじめて「自分ごと」化し、リスク意識や予防意識が高まる

同時に、知識提供後では、「自分も心不全になる可能性がある」というリスク意識や、「定期的に健康診断を受けたい」という予防意識も高まっています。

心不全は生活習慣の乱れなどからも起こるということを知らなければ、危機感を持ちません。症状を知らなければ気づきもしませんし、治療法を知らなければ対処の仕方も分かりません。

高齢化が進み、心不全の患者さんの増加が予測される中では、「自分には無関係な心不全」を「自分ごと」化してもらうことが重要で、そのための啓発活動が急務となります。

■ 治療や予後にとって重要なのは、「早期発見」。血液検査でBNP値の測定を。

なかでも知ってほしいことは、心不全の原因にはたくさんあり、その基礎疾患の「早期発見の大切さ」です。早期に発見すれば、食生活改善、運動、服薬などの適した治療ができ、状態が悪化する速度を抑制できます。それは、発症後のQOLの維持にもつながります。

心不全を早期に発見する方法には、心不全の原因となっている病気の発見と「血液検査時のBNP値測定」があります。

BNP（脳性ナトリウム利尿ペプチド）は、心臓に負荷がかかったり、心筋が肥大したりすると、それを抑えるために大量に分泌されます。血液中のBNP量を測れば、心臓のダメージ度が分かります。保険適用対象ですから、血液検査の際にBNPの測定も依頼すれば、簡単に検査してもらえます。

2025年には団塊の世代が75歳以上となり、心不全患者さんは120万人超に急増することが予測されている今日、患者予備軍はもちろん、現在健康を自負している高齢者の方にも、心不全に対する正確な知識の必要性が高まっています。